

第 42 回 大阪市都市景観委員会 会議要旨

1 開催日時 平成 26 年 12 月 19 日（金）午後 4 時 00 分～6 時 06 分

2 開催場所 大阪市役所 7 階 第 5 委員会室

3 出席者

（委員） 澤木 委員長、嘉名 委員長職務代理者、岡田 委員、加賀 委員、下村 委員、
田中 委員、長町 委員、橋寺 委員、山納 委員

（大阪市）横山 建設局管理部路政課長

（大阪府）戸田 住宅まちづくり部建築指導室建築企画課長

（事務局）安藤 開発調整部長、山田 都市景観担当課長、
中西 都市景観担当課長代理、松崎 担当係長、松村 係員

4 議 題

（１）委員長の互選等について

- ・ 委員による委員長の互選
- ・ 委員長による委員長職務代理者の指名

（２）今後の景観施策のあり方について

（３）その他

5 議事要旨

（１）委員長の互選について

委員の互選により澤木委員が委員長に選任された。澤木委員長が嘉名委員を委員長職務代理者として指名した。

（２）今後の景観施策のあり方について

今後の景観施策のあり方について、大阪市長より都市景観委員会委員長あて、調査審議を賜り答申いただきたいとの諮問を行った。

（審議内容、委員からの主なご意見及び事務局の回答等）

○大阪市の景観の特色や、大阪らしさとは何なのかが見えないのではないか。

（京都は京都なりのポリシーを持ち、神戸は神戸なりの特性を生かそうとしている。）

○何のために景観形成をするのか、はっきりした目的を打ち出すべきではないか（伊勢は観光）。

○大阪を代表するものは何なのか、どこを重点的にもっと売り出していくべきか、を作っていくべきではないか。

○実際のまちの使い手、そのまちに愛着を持つような人たちが求める景観形成を図っていくべきではないか。

○大阪の景観構造を捉え、メリハリのある規制誘導をやっていくこと、ストーリー（理論）を持ちながら、船場の北エリア、南エリア、それをつなぐ東西方向の考え方を景観の構造として捉えていくことをやっていくべきではないか。

○5年程度で結果がでるように、他のプロジェクトや施策の動きに合せ、戦略的に景観施策を進めていく必要があるのではないか。

○エリアごとに多様な目的を持つような狙い方をすべきではないか。

○小さな重点エリアを見つけて、施策目的も含め、具体的な施策展開が必要ではないか。

○建築美観誘導制度は、時代に合わせて見直していく必要がある。

○都市景観資源などの個性的な点を入れ込みながら、各エリアに合った個性のあるエリアが求められている。

○神戸市の景観協議会の様に、市民に理解してもらい、市民の力をかりるような方向性が必要

○地域活動の方が使いやすい支援制度が必要ではないか。

○市域全域一律の基準が妥当か少し検証すべきではないか。

○優先順位をつけて、やらねばならないところに集中的に施策を打つためには、各部署が入っていけるような横につながるような調整会議が必要ではないか。

○ロードマップを描きながら、優先順位を考えて進める必要があるのではないか。